

石クリ通信

2月号

医療におけるAIの利用

院長 石川 悟

AI（人工知能）は、車の自動運転、将棋の対戦相手などでは、今や人間の頭脳を超えるようになっていきます。医療現場でのAI利用はどうでしょう。検診の結果判定を行ったり、画像検査（CTやMRI）の自動診断での利用はすでに一部で始まっています。これから日常診療の中でも使われていくのが予想されます。

AIが問診をし、診断をつけ、薬の処方までして、医者の仕事が終わるなど心配する向きもあります。実際にAIの導入によって医者の仕事内容は大きく変化していくでしょうが、仕事が終わることはいいでしょう。患者さんがインターネットなどでAIの診察を受けて、適した診療科を受診するようになることもなるのは遠くないと思います。

AIが間違った診断をし、まちがった処方をしてトラブルになった時、AIを作った会社の責任か、最終的に判断を下した医者の責任かなどの議論があります。これから解決しなければならぬ問題だと思っています。

AIの学習能力は人間を超えるものがあり（間違ったことを教えてしまおうと悲惨な事態になりますが）、日々新しい情報を入手し、不備な点を修正して行けば、優秀な医者を越える事も可能でしょう。AIは24時間休みなく働きますし、同じものを複製するのも簡単です。新しいことを学ぶことに異議を唱えることもないし、間違いを指摘しても、「メンツをつぶされた」などとは考えません。これからはうまくAIを使いこなす技が必要になってくる時代です。

誕生日プレゼント

看護助手

柴田 さち子

私の誕生日に、娘家族が常陸牛ステーキをプレゼントしてくれました。常陸牛のプレゼントは二度目で、一度目は石川クリニックのスタッフの皆からの誕生祝いでした。その時も肉の柔らかさに感動しましたが、今回もうまみや柔らかさは絶品で、前回を思い出しました。夕食でワインと一緒に頂き、最高の誕生日になりました。常陸牛は最高です！



塀の中の医療

事務長 石川 都

おたわ史絵著「プリズン・ドクター」を読んだ。テレビや著書で有名な彼女が、薬物依存の母との確執を経て、父から継いだ医院を閉じ、刑務所の矯正医官になるまでの軌跡も、波乱万丈である。

巷では、罪を犯した人をわざと助ける必要があるのかという意見もあるが、刑務所とは罪人を閉じ込め懲らしめる所ではなく、犯した罪に対し懲役労働を課して更生させるのが目的なので、少なくとも健康で働ける心身レベルを維持するための体調管理が必要なのだという。一番考えさせられたのは、いわゆる医学的弱者という存在である。身体的・知能精神的に標準力に満たない人々が社会には一定数存在し、彼らは罪を犯さずに生活する術をほぼ持たない。また劣悪な生育環境で育ち、人への信頼や自己肯定感が低い人も同様である。彼らに必要なのは、法の裁きでも懲罰でもなく、社会的な救い・矯正の道であると著者は強調する。

ただ興味深い指摘もあった。巷ではクサイ飯などと評判の悪い刑務所ご飯も、今やかなり充実し、栄養バランスも良く薄味で、量も十分にある。そのため長年不摂生で生活習慣病だった人たちが、みるみる健康になる。つまりは規則的な生活習慣、酒もタバコもクスリも「できない」「ヘルシーライフが塀の中だ」という。著者は冗談めかして「獄中美容ダイエット」と呼ぶが、生活習慣病はその名の通り、罹るのも治るのも生活習慣から・・・という指摘には唖った。

また著者は、海外の刑務所でも実践される「笑いヨガ」にも取り組む。楽しさや面白さは望まず、ただ笑顔でハハと声を出して息を吐く運動だと割り切った行の肝心で、アホらしいと思いつつやつても、それで心身の効果がちゃんと現れるのが人体の不思議だそうだ。世間に出たら腹の立つことも多いけれど、そんな時こそ一人で思いっきり笑い顔を作って「ホッホッ・ハハハ」を唱えましょう。つらい時ほど笑い、楽しくなくても笑っていれば、気分はおのずとついてきます。練習しましょう。そして二度とここで会うことのないよう元気で過ごして下さい・・・と著者は語りかける。

どうにもとまらない

看護師 澤田 彰子

この時期になると干し芋が無性に食べたくなります。ご飯を食べた後でも気がつく回数枚ペロリと食べてしまいます。魅力度は低くても美味しい干し芋がある茨城の生まれで良かったなあと思つて思っています。茨城の干し芋は格別に美味しいですね。遠く離れた友人や親戚に贈るととても喜ばれます。今年も芋生活楽しみたいと思います。

毎朝、届きます

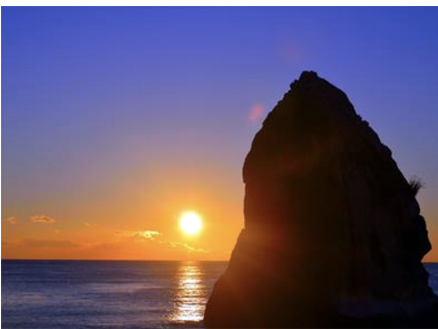
事務 吉田 政子

毎朝決まった時間に、安否確認を兼ねた「おはよう」メールが父から届きます。最近、父のその日の予定や朝の風景、庭の様子などを、頭の体操と称して川柳が一句、一緒に送られてきます。内容は身近なことが多いので、竹林とあれば、実家から見える三軒先のご近所さんの家の竹林のことで、庭の水仙が咲いたとあれば、柿の木の下の水仙が咲いたのかと思いつくことができます。毎朝送られてくる父からのメールは、「今日も父は元気」と言う安心と、我が家の台所に居ながら実家の周りの風景を感じられるちよつとした楽しさになっています。

初日の出

看護師 太田 小百合

二〇二三年一月一日、夫の実家に行く途中にある磯原海岸で、二つ島から望む初日の出を見ました。いつも二つ島の前を通ると「大きな岩！ 何でこんなところにあるんだろう」と思いますが、何気なく通り過ぎていましたが、日の出と重ねると「おおー！」と思わず声を上げてしまふほどの絶景に変わりました。何だか少し得をした気分になり、「今年はいいいことあるかも」と思った初日の出でした。



癒されます

事務 森 多加子

蠟（ろう）梅を頂き、玄関に飾りました。黄色い小さな花ですが、とても良い香りがします。十二月から二月にかけて咲く花で、英名では Winter Sweet と呼ばれているそうです。寒い冬に甘い香りを放つ蠟梅にぴったりの名前です。癒されます。

